

報 告 書

開催日時	平成26年11月5日（水）午後7時00分～8時30分	
開催場所	米崎中学校仮設集会所	
出席議員	挨拶 及川 修一班長（教育民生常任委員会委員長）	
	司会進行	大坪 涼子
	報告者	及川 修一
	記録者	鶴浦 昌也
	議員	大坂 俊 松田 信之、清水 幸男
参加人数	市民12人、市職員2人、共同通信1人、東海新報1人	
主な要望 ・提言等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私は、しばらく仮設住宅や災害公営住宅で生活し、そのうち自宅を再建しようと思っていた。しかし、市から「災害公営住宅に入るのか」との問い合わせがあった。「入居者が少ない」ということを知ってショックだった。 2. 災害公営住宅の家賃は、所得に応じてということだが高くて大変。入居しても、間もなく出ていく人がいるのではないか。 3. 公営住宅に入居しても、再び仮設住宅に戻ることができるのか。家賃が高くて戻りたいと思う人が出てくるのではないか。 4. 家賃設定は変えられないのか。被災者が入居する災害公営住宅というなら、考えてほしい。 5. 仮設住宅は家賃がないので、公営住宅とのギャップが大きい。 6. 仮設住宅を出るとき、エアコンや温風機、物置などは置いていかなければならないようだが、仮設に最後までいればもらえるとの報道があったがどうか。 7. 宮城県などではエアコンがもらえたりしているようだ。 8. 高台移転先の土地単価が違うようだ。 9. 被災者への支援制度で、今後新しい内容のものはないのか。公営住宅の家賃が高く、自宅を再建するにも借金ができない。これまでの支援金で新たな家を建てるには足りない。もう少し支援をお願いしたい。 10. 高台移転で土地の引き渡しを受けた後、2年以内に工事をしないと土地を返さなければならないとの話を聞くがどうか。 11. 固定資産税もすぐに納めなければならないのか。 12. 当初、とりあえず公営住宅に入って自宅を再建しようと考えていたが、家賃が高くて入れない。 13. 高田高校の仮設住宅に住む人たちが「出て行ってほしい」と話され 	

	<p>たと聞くがどうか。</p> <p>14. 防災集団移転事業や宅地造成を終えたら、仮設住宅の撤去についての方針を示してもらい、計画的に転居を進め、子どもたちの教育環境を整えていくべき。早めに学校の校庭を空けていかなければならない。</p> <p>15. 子どもたちは運動量が減って太っているのではないか。以前は体育が得意だったのに、リレーの選手にも選ばれなくなった子がいる。</p> <p>16. 学校の休み時間に米崎小学校へ行くとひっそりとしている。あるとき、大きな声が聞こえた。それはお昼休みの時間で、サッカーしたりしていた。中休みの時間は遊んでいないようだ。</p> <p>17. 仮設住宅暮らしが3年数カ月経ち、救急車を要請する機会が多くなった。現在の医療費助成は大変ありがたい、今後、住宅費がかかり、医療費の助成が打ち切られると負担が多くなる。出来る限りの医療費助成の継続をお願いしたい。</p> <p>18. 復興事業に関する市の派遣職員や事業者は精力的に仕事をしている。本当に感謝している。</p> <p>19. 自宅を再建する際、市の建設業界から無償で設計してもらいながら市外業者に施工してもらってもさまざまな補助をいただけるのか。</p> <p>20. 合併浄化槽は家の大きさに決めるのか。それとも家族の人数で決めるのか。</p> <p>21. 漁業を活性化するためにも漁港の整備をお願いしたい。</p> <p>22. 新笹ノ田トンネルに関し、市内でも署名活動が行われた。一日も早くできればいい。路面が凍結する冬場の危険解消につながる。</p> <p>23. 震災の検証について、もう少し市民から話を聞いてほしかった。今後、震災を風化させないためにも「3・11を震災の日に」との話も出ている。検証報告書には町別や避難所別の犠牲者数は出ているが、風化防止のためにも行政区ごとの犠牲者数を出してほしい。</p> <p>24. 防潮堤は12.5メートルの高さで整備されるようだが、背後内の活用についても検討すべき。すでに気仙町と広田町で進められており、米崎町や小友町でも取り組むべき。国の補助制度もあると聞いている。</p> <p>25. 山田町でNPOの問題があったが、市内で同じような問題は出ないか。</p>
<p>所 感</p>	<p>【及川 修一】</p> <p>仮設住宅に住まわれている方ならではの内容であったが、なかには風聞を鵜呑みにして不安を抱いている方も複数いた。議員からは、担当の市の職員に直接会って相談されるようにしていただきたいし、その橋渡しは努めて行っていきたいとお話しさせていただいた。</p> <p>全体として穏やかな質疑応答であったが、私自身が答弁する回数が多</p>

くなり、他の議員にもその機会を作るべきだったと反省した。

【大坪 涼子】

下和野災害公営住宅入居が始まったことにより、今後入居を考えている方は、希望をもった反面、入居料の心配がある。また、市内各地での集団移転など、急ピッチで工事が進んでいることも目に見えている状況は、かなり期待していると感じた。

【鵜浦 昌也】

災害公営住宅の家賃について、「高い」との声が多く聞かれた。そのため仮設住宅を出ることができずに悩んでいる被災者も多いようだ。家賃の設定について再考の必要性を強く感じた。

【大坂 俊】

防災集団移転促進事業における2年以内の建築業者契約義務条件付与の件、市担当課による仮設住宅の早期退出依頼の件、仮設住宅退去時に持ち出しできる支給品について、など、不正確な情報が流布されている事実が散見され、情報の正確な伝達の必要性を感じた。

公営住宅の家賃、医療費免除、国民健康保険税の軽減化など、今後の仮設住宅退去後の生活に対する不安から出ると思われる声が多く上がり、更なる何らかの形での支援の検討が必要か？と思われた。

【松田 信之】

生活の再建について、それぞれがそれぞれの立場で切実な思いをしていることを間近に聞かされ大変参考となった。

【清水 幸男】

仮設住宅生活から防災集団移転や災害公営住宅建設が進み移行されることに伴って、家賃の減免要望や住宅建設等に関する「生活と住まい」の不安や課題が多くなり、日々生活の情報を求めたい思いが日増しに強まる感がしてならない。

復興の状況に関しては、復興ニュース等で周知はしているものの、より詳細な情報の提供と人とのふれあいが重要である。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 様

平成26年12月9日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会教民班

班 長 及 川 修 一 ⑩